

河原地域振興会議 様
(平成29年7月19日 於 島根県中山間地域研究センター)

河原地域振興会議 様 新たなコミュニティ これからの中山間地域について

島根県中山間地域研究センター
地域研究スタッフ 研究員 東良太

1



島根県中山間地域研究センター
分野横断 (農畜林獣+地域研究) & 中国5県共同研究
地域研究部門 調査研究 (ノウハウ開発等) × 地域運営組織づくり支援

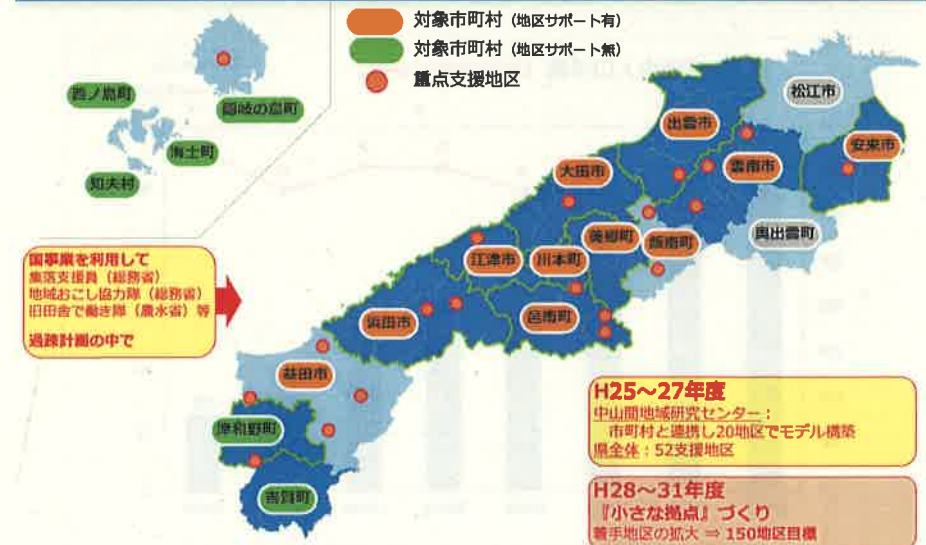
2



地域の運営体制づくりのサポート

3

地域運営組織づくり支援



4

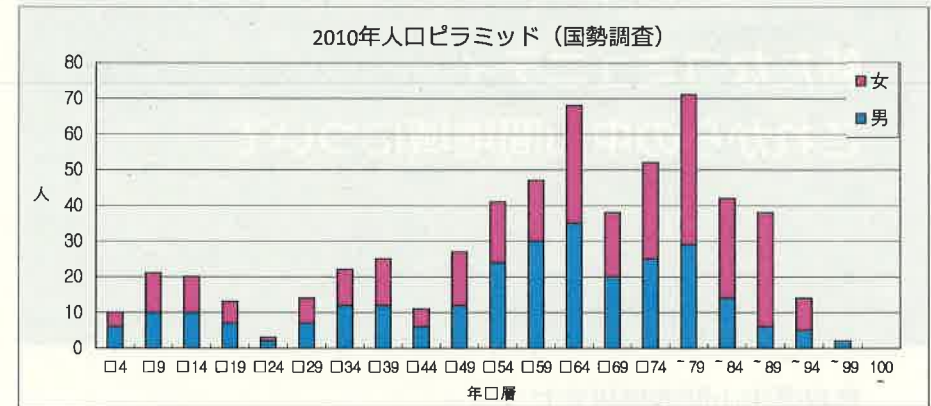
本日の目次

1. 中山間地域の人口・移住の状況と 地域運営の仕組みづくりの概要

2. 各地域での地域づくりの進め方

3. 活動おこしから本格展開へ（事例紹介）

①中山間地域のコミュニティの 人口と年齢構成（例）

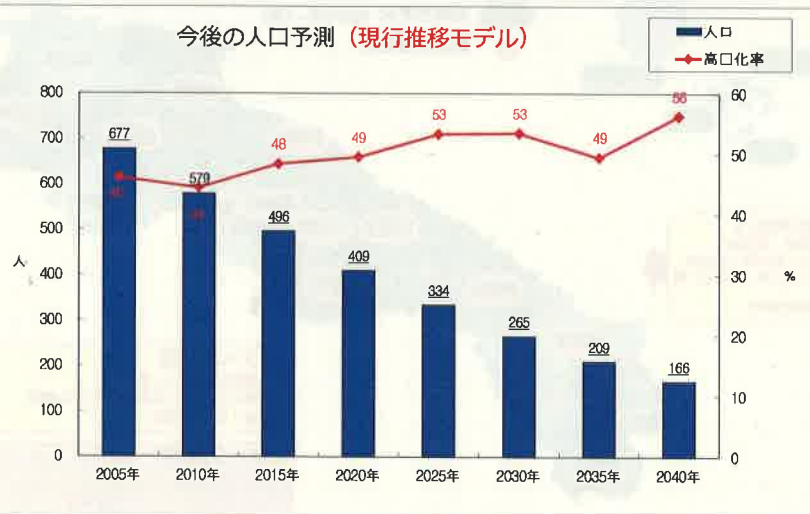


(例) 島根県益田市A地区（範囲：公民館エリア）
人口：579人、高齢化率44%

5

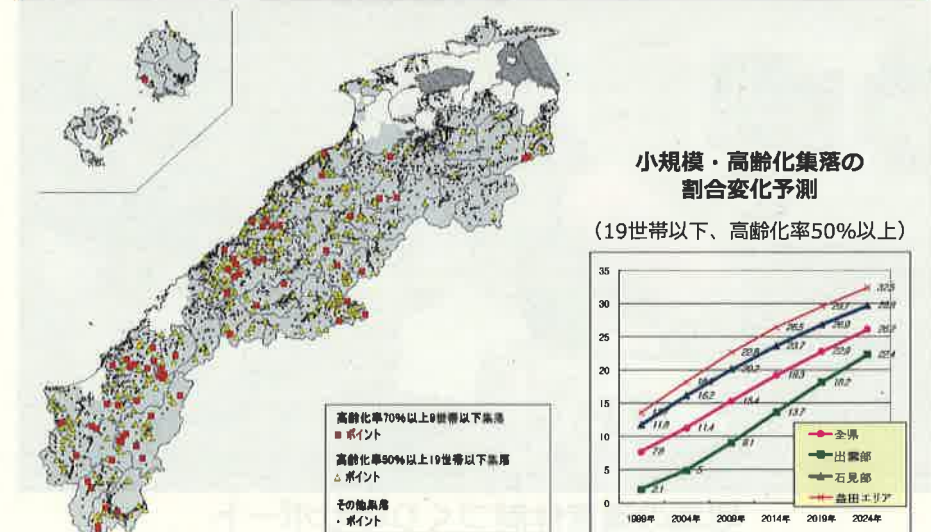
6

②2005～2010年の動態が続いた場合 （将来人口推計）



7

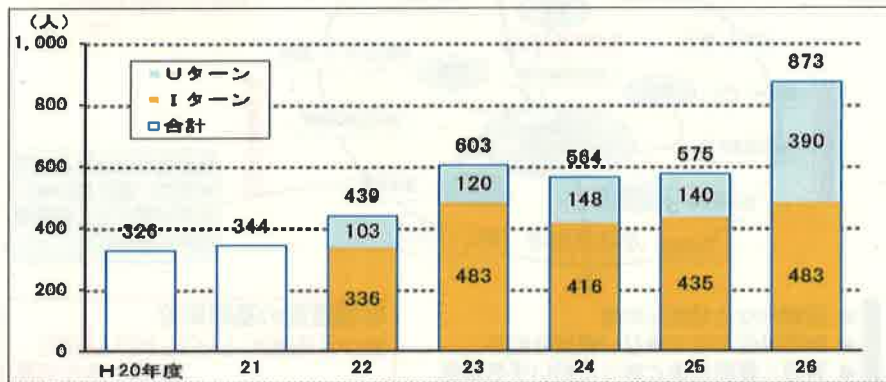
小規模高齢化集落の分布



8

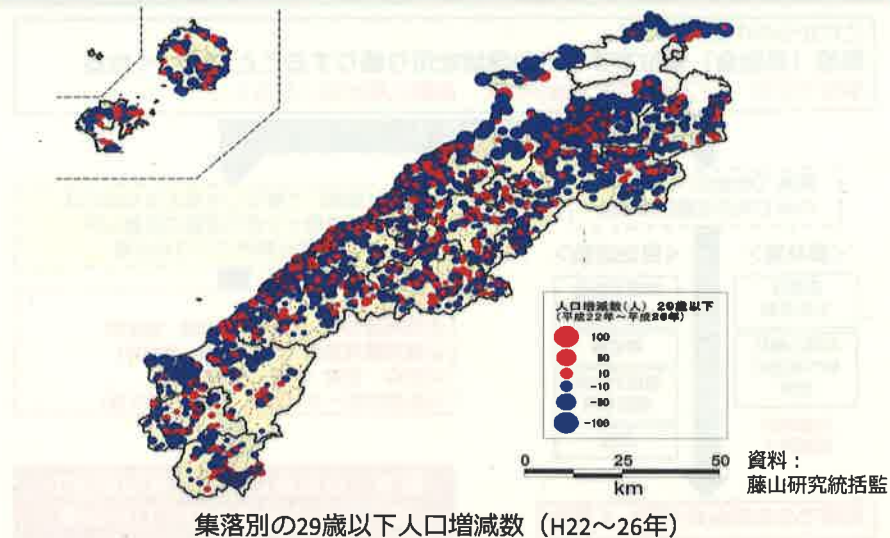
県外からのU・Iターン人口増加傾向

- ・若者を中心とした田園回帰のトレンド
- ・各市町村の定住促進体制の強化
(定住支援員の配置、医療費・住宅補助など各種支援制度)



9

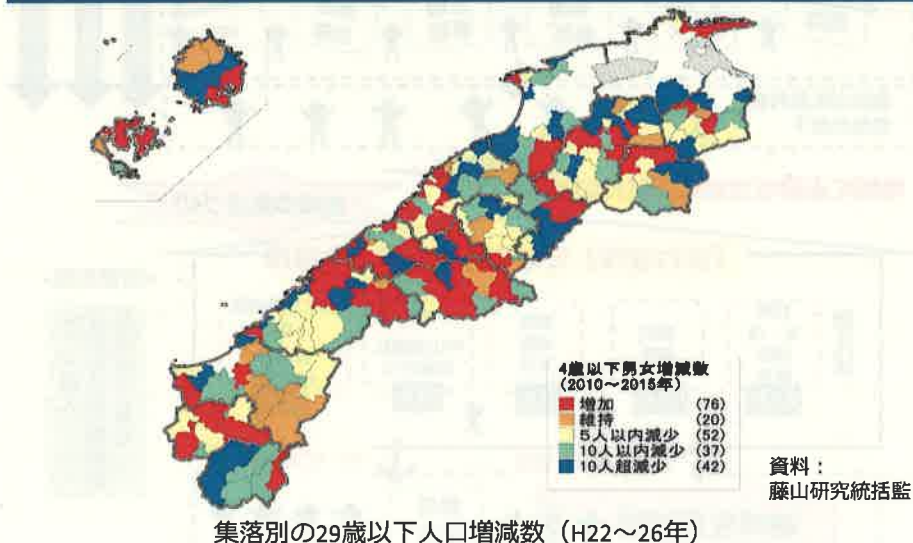
中山間地域での若年層の人口増減 (集落人口データ)



集落別の29歳以下人口増減数 (H22~26年)

10

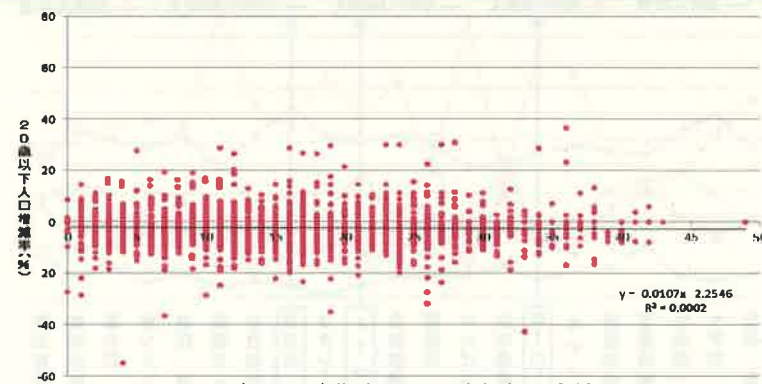
4歳以下子供の増減数 (H22~26年)



集落別の29歳以下人口増減数 (H22~26年)

11

最寄りの市役所・役場 (本所) までの 到達時間と29歳以下人口増減率の関係



最寄りの2次拠点までの到達時間 (分) 資料：藤山研究統括監

田舎の田舎でも若者人口が増加

29歳以下の人口の増加している地域では、
若い世帯の移住はまちへの距離と関係なく進むようになってきている

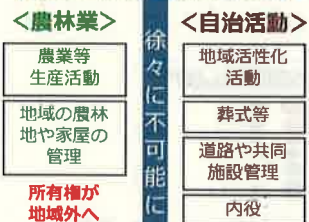
12

より小さい人口規模に対応した 地域づくりの方向性

これからの中山間地域は、**集落（自治会）単位ですべての地域を切り盛りすることが難しくなる**
集落で世帯・人口が極限まで減少して、高齢化率が高くなると...

従って！

集落（自治会）の枠組みのみで対応を続けた場合



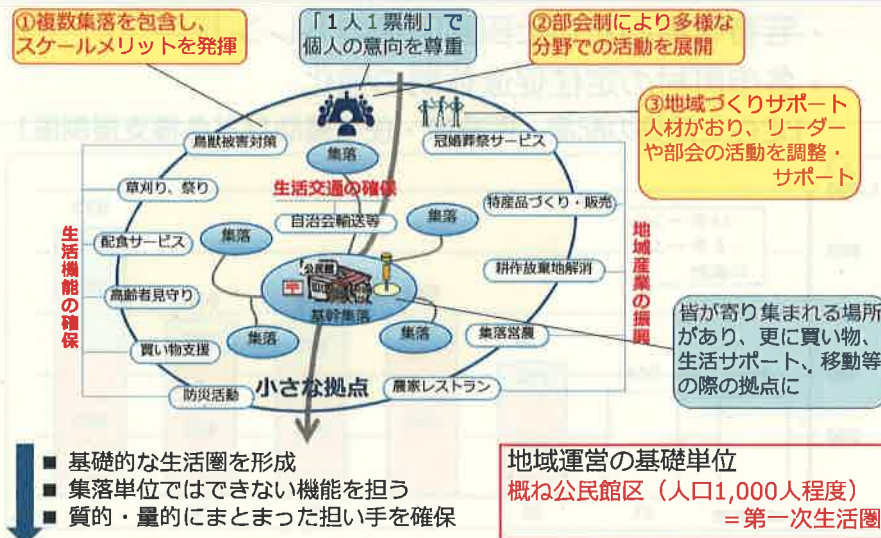
地域での生活条件が著しく悪化

集落（地域）で暮らしを支えるためには、集落で担ってきた役割の見直しや新たな仕組みづくりが必要

- <特に>
- ①地域活性化（販売、交流、定住等）
 - ②資源管理体制（農地、山林、家屋等）
 - ③安心・安全（防災・安否確認等）
 - ④生活サポート（買い物、通院、子育て等）

集落（自治会）より大きな範囲で取り組める仕組みづくりが必要

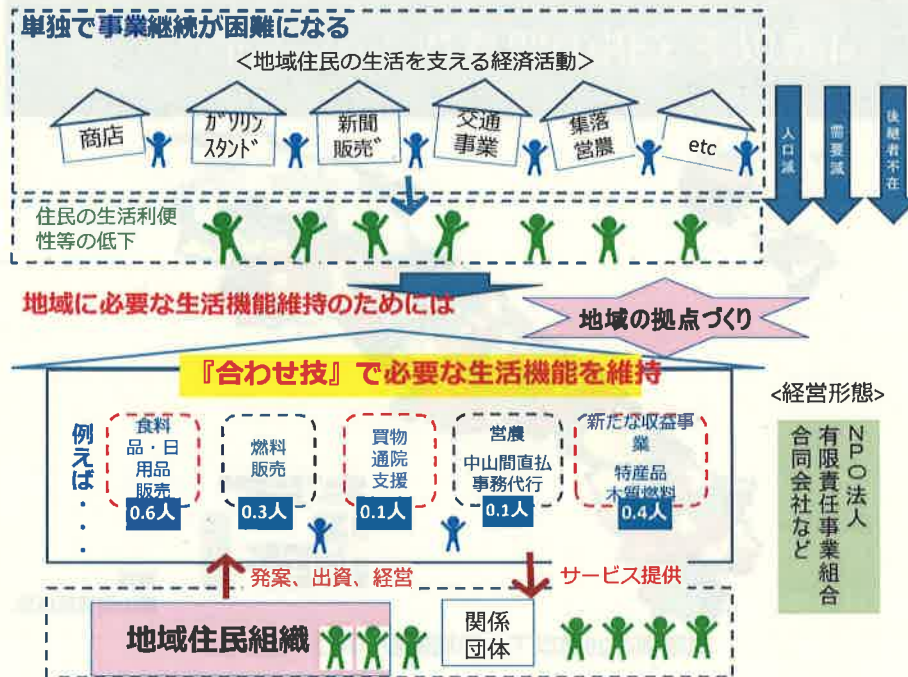
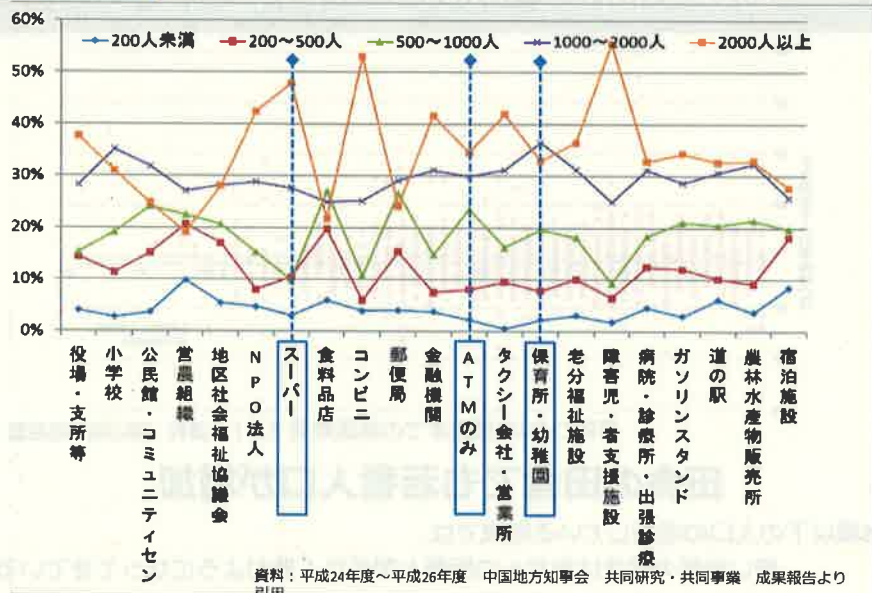
複数集落を包含するエリアで 地域運営組織をつくる



- 基礎的な生活圏を形成
- 集落単位ではできない機能を担う
- 質的・量的にまとまった担い手を確保

地域運営の基礎単位
概ね公民館区（人口1,000人程度）
= 第一次生活圏

【第2段階目】『合わせ技』で暮らしに必要な生活機能を維持する 人口規模縮小 → 商店など生活機能低下 + 働く場所の減少 → 次世代定住条件悪化



地域の生活機能の維持を目的とした「合わせ技」例



①水道局から水道検針受託×430戸の見守り
躍動と安らぎの里づくり鍋山（雲南市鍋山）



②地元新聞販売店を引き継ぐ
LLPてごおする会（島根県邑南町口羽）



写真：出羽公民館だよりより引用

③防災用の薪の備蓄×薪の販売
薪ステーション（邑南町出羽地区）

中山間直支の事務、農地管理

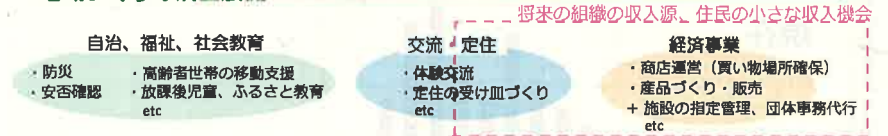
定住の受け皿整備（住宅）

都市との交流口連携の促進

住民の日々の暮らしに
必要な業を支える

【第Ⅲ段階目】地域経済循環拡大の視点で地域の経済事業展開

地域づくりの活動展開

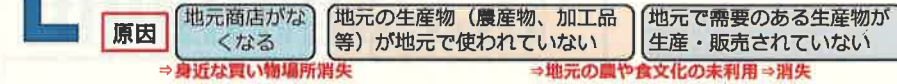


“地域の経済活動展開”で重要な視点 『地域から出ていくお金を取り戻す』

中山間C地域経済循環調査

島根県〇町A地区：人口約1500人 ⇒ 世帯の食料・燃料への年間支出：1億8000万円

食料	世帯合計	単位：万円						
		①夫婦のみ世帯(65歳未満の者を含む)	②夫婦のみ世帯(構成員は65歳以上のみ)	③夫婦と子供からなる世帯	④ひとり親世帯	⑤核家族以外の世帯	⑥単独世帯(65歳未満)	⑦単独世帯(65歳以上)
米、粉、雑穀	1,554	142	667	120	31	222	75	307
パン	1,489	152	394	190	118	363	60	184
めん類	997	85	232	176	26	325	45	108
生鮮野菜・キノコ	2,476	200	672	374	117	693	106	314
野菜加工製品	1,968	132	671	226	136	420	69	313
果物	1,289	53	419	182	44	336	28	196
お菓子	3,175	251	872	428	292	793	132	407
緑茶おかず・弁当・漬物(779)	2,878	287	941	281	258	621	161	439
燃料 灯油、A重油 (暖房・給湯用)	2,599	241	1,178	131	131	242	127	660
地産地消可能額(パターン②)計	18,394							



本日のコンテンツ

1. 中山間地域の人口・移住の状況と
地域運営の仕組みづくりの概要

2. 各地域での地域づくりの進め方

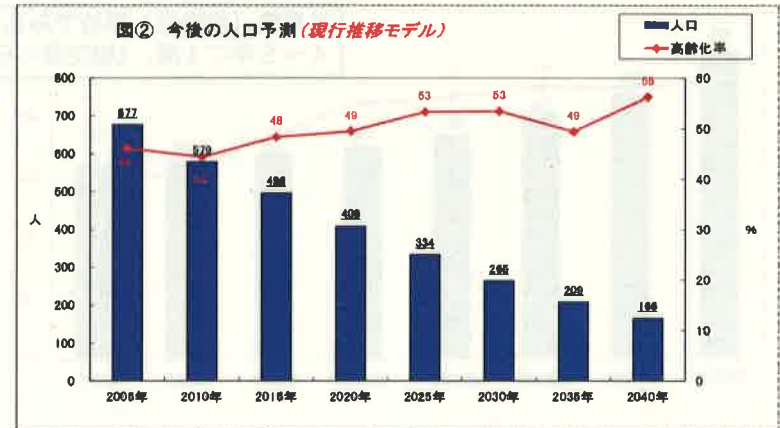
3. 活動おこしから本格展開へ（事例紹介）

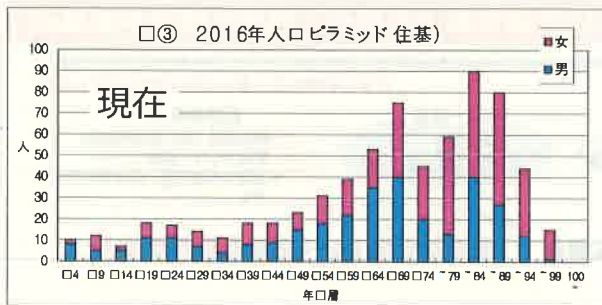
島根県各地域での地域づくりの
進め方と目指す形

今後の地域の人口・年齢構成がどうなるか？

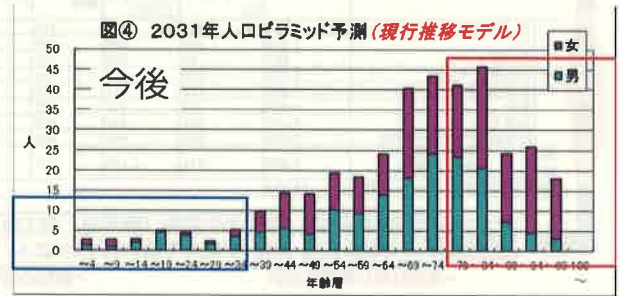
危機感⇒前に進むエネルギー 人口規模、年齢構成、独居世帯数

2005～2010年の動態が続くとすると（将来人口推計）

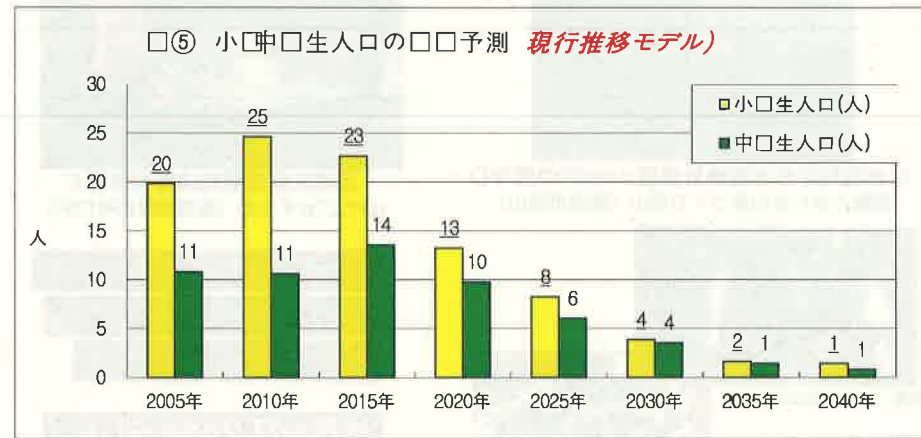




↓ 15年後

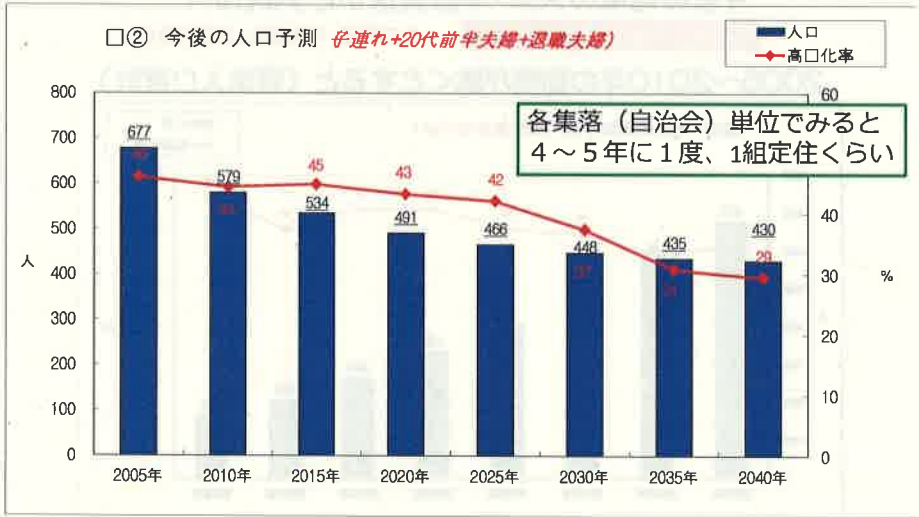


2005～2010年の動態が□くとすると 小□中□生□

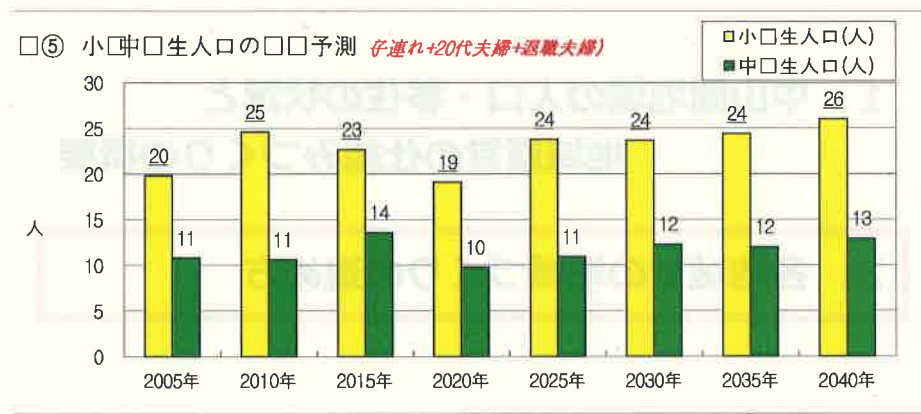


U&Iターン□加シナリオ どの程度定住があれば?

- 想定□件 = 30代前半夫婦 (4□以下の子供) と20代前半男女が□年、各1組流入□加



U&Iターン□加シナリオ 小□中□生の人口予測



最終的に人口推計データは地域住民での共有していくが

- いきなり全住民対象ではなく、地域の集落（自治会）役員、各グループリーダーに集まってもらい、人口推計をみてもらいながらの意見交換から始める
- 数字だけで話さないようにする。目標は定住実現なので空き家の状況や他地域の定住の取り組みを並行して勉強していく。



島根県川本北地区
各自治会の会長、副会長、青年部長と人口推計結果も含め意見交

第2ステップ 皆が地域に思っていること・生活課題の共有

①全住民アンケート「生活課題や現在の地域運営の問題点の把握」

対象：世帯ではなく18歳未満も含めた個人

特徴：地域の全個人の意見、会合には出ない意見を把握できる
性別・各年代の思いの違いが共有できる

「みんなの思い」みんなで知ろう!! 瓦版

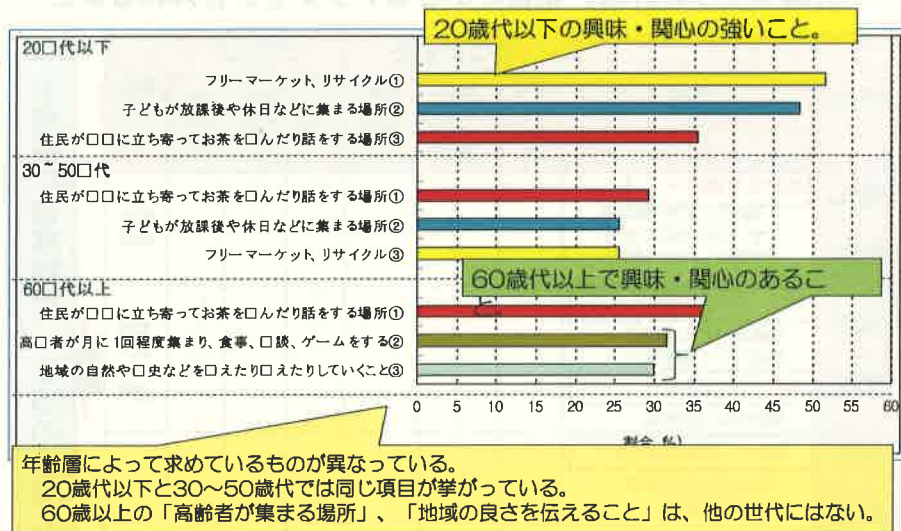
～アンケート調査集計分析結果報告書～

こんにちは。私たち「渡佐・小園集落の里づくり委員会」は「どがにしたら渡佐や小園が元気になるんじやろ？」と考え昨年12月下旬に地域の皆様の思いを聞くためにアンケート調査を実施しました。皆様、アンケートへのご協力ありがとうございました。
皆様より寄せられた貴重なご意見を、本報告書の形でまとめることができましたので、是非ご覧ください。

〈特別見出し〉

- 渡佐・小園集落が望むのは「安心・安全な地域」!!
- 里づくり委員会の活動力は、休日の中に10時間(ひと月)!!
- 40～50代の半数は希望通りに「出向したい」が10～20代及び60代では、「出向しにくい」と考える割合が高い!!世代間のギャップがある。
- 技術が学べる研修会があれば市町村に出向できる人は何人も!!
- 渡佐・小園に地1年間に1330人も外部から出身者が出入りしている!!
- 出身者の約4割は、再来渡佐・小園に帰りたい!!

【回答例】日常生活の中で必要なこと・興味のあること 年齢別ベスト3



全世代に共通して、「住民が気軽に立ち寄ってお茶を飲んだり話をする場所」が挙がっている。

★調査をつくる行程が大切！ やらうという住民意思決定と調査設計への住民参画

本日のコンテンツ

1. 中山間地域の人口・移住の状況と 地域運営の仕組みづくりの概要

2. 各地域での地域づくりの進め方

3. 活動おこしから本格展開へ（事例紹介）

第3ステップ 『計画づくりと活動おこし』

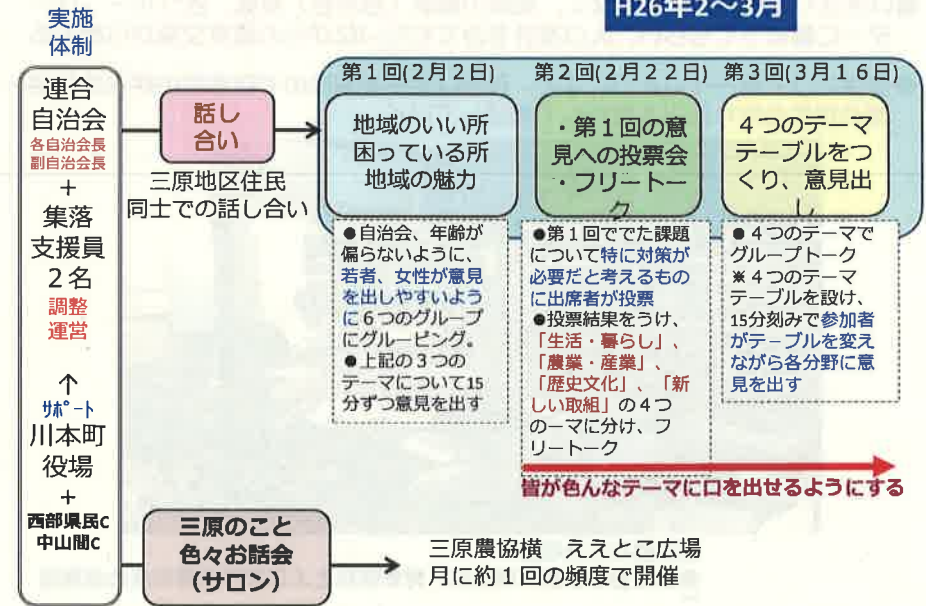
計画づくりと活動おこしで大切なこと
 “色々な意見や活動の種が生まれるように”話し合いの場をつくる

事例：島根県川本町三原地区（現在進行形）



①地域づくり計画に向けた話し合い 3回【ステージ1】

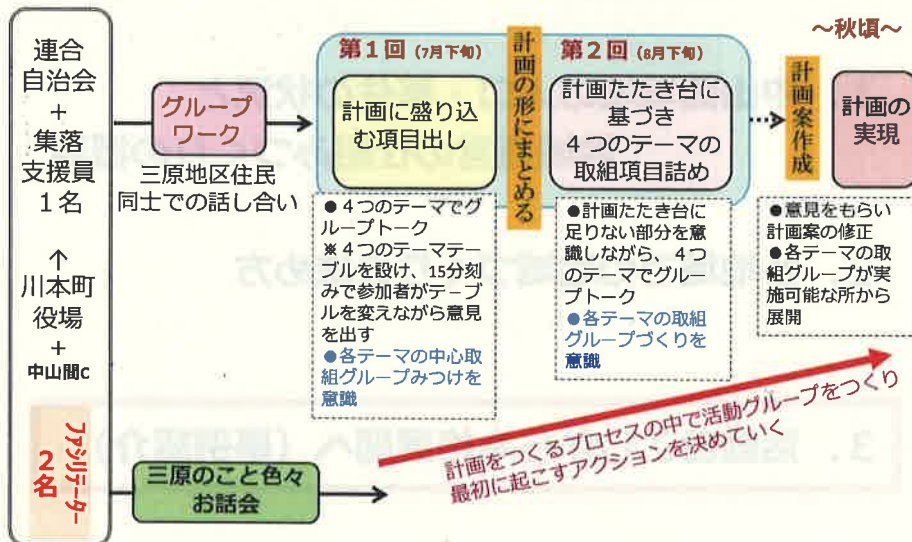
H26年2~3月



②計画づくりに向けた話し合い【ステージ2】

H26年6~9月

実施体制



計画づくりの肝は、最初の小さなアクションを入れること

テーマ	項目	いつまでに			グループ	連合自治会	行政と一緒に	必要条件
		すぐ1年で	近い将来2~3年間で	遠い将来5年間で				
暮らし・生活	高齢世帯調査→ ・困りごとお助け隊 ・小さな立ち寄れる場(サロン)づくり(複数)	○	○		○	○		場所確保
	農業・産業	○	○	○	○	○		営農法人との連携
歴史・文化	視察・研修会開催→ ・仕組みづくり検討会 ・仕組みづくり構築	○	○	○	○	○		
	堆肥づくり研究会→ ・堆肥供給体制整備	○	○	○	○	○		
新たな取組	集まって歴史を話す会→ ・三原の史跡資料収集 ・子どもへの伝承	○	○	○	○	○		
	色々な歩道地図をつくる→ ・作ったルートを歩こう会 ・ウォーキングトレイルづくり	○	○	○	○	○		関係世帯団体協力

1年毎に進捗確認、項目の見直し・追加

第4ステップ 小さな試行→定期的な活動へ 特徴的な活動紹介

福祉分野

サロン

みんなが気軽に立ち寄って話ができる場をつくる

事例1 川本町北地区



フェルト細工講座

- 1年目 月に1回の茶話会日 (自主企画)
- 2年目 月に1回の茶話会×各課連携事業 + 自主企画 (公民館体験活動6回) (介護予防活動6回)

事例2 『生活おたすけ隊』 (島根県邑南町口羽)

生活おたすけ隊

自治会名	集落名	世帯 (戸)	人口 (人)	高齢化率 (%)	65歳以上 (人)	65歳以上 独居 (戸)
上口羽自治会	川角	9	15	80.0	12	5
	神谷	13	27	66.7	18	6
	原田	17	32	68.8	22	6
小計		39	74	70.3	52	17
下口羽自治会	土屋	24	67	44.8	30	6
	高瀬	11	24	79.2	19	2
	根布	36	80	50.0	40	12
	坪釜	18	34	50.0	17	7
	西ノ原上	20	50	50.0	25	6
小計		128	289	50.2	145	39
口羽町自治会	町上	27	53	60.4	32	6
	町下	32	71	40.8	29	8
	青石	4	8	100.0	8	2
小計		63	130	51.5	67	16
上田自治会	江平	15	27	74.1	20	6
	上田	22	63	41.3	26	5
	平佐	14	38	42.1	16	4
	日南川	11	31	51.6	16	2
	松木	11	21	57.1	12	5
	長田向	17	35	60.0	21	7
小計		118	276	51.4	142	35
合計		346	769	52.8	406	107

(凡例) ■ : 高齢化率 70% 以上 ■ : 高齢化率 50% 以上 (出典: 2012年邑南町資料より)

- 口羽地区の人口は800人
- 世帯数400戸
- 4自治会 20集落 (2012年現在 邑南町提供)

20集落のうち14の集落が高口率50%を超え、口羽地区全体の高口率も50%をこえている。

現在では益口、集落の小規模高口化が進行しており... 集落での共同作業や役務、お祭りの開催や、昔からある集落での助け合いも、年々難しくなっている。

シルバー人材センターも高口化し口羽不可能になってきた

お助け隊ができないか? → 高齢世帯訪問聞き取り調査

調査票のスクリーンショット。世帯主の氏名、住所、電話番号、年齢、性別、健康状態、生活状況、支援ニーズに関する質問項目が並んでいる。

調査を通し、住民の方々としっかりコミュニケーションできる まずは会話を関係づくりから!

活動費を利用し実施



- 生活での困りごと (支援ニーズ)
- 家屋・農地の現状 今後の利用意向
- 後継者の有無
- 他出している子供さんの状況、つながり方

手ごおする隊を組織

- 窓口 = 地区社協
- 対象年齢: 制限なし
- 利用料金 シルバー人材センター料金準拠

- 口羽にてごおする会の窓口の開設
- てごお協力隊設立・登録募集
- てごお協力隊の支援活動開始 草刈り・墓掃除・田の荒起こし

協力隊活動 (草刈り)



てごお隊登録用紙

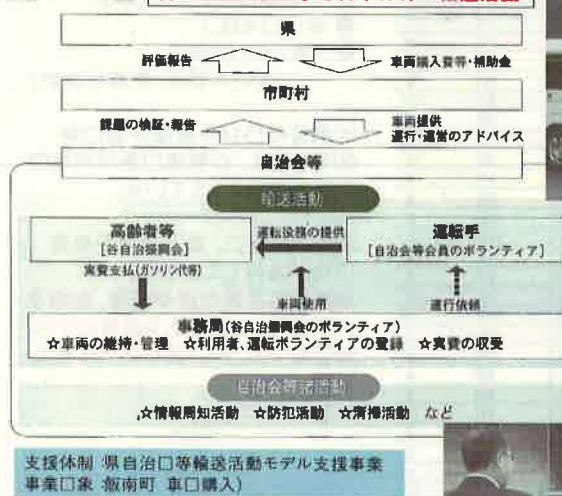
登録用紙のスクリーンショット。申請者情報、活動内容、連絡先などの記入欄が並んでいる。

交通分野

事例3 自治会等輸送活動（島根県飯南町）

事業イメージ図

谷自治振興会によるたすけあい輸送活動



利用対象者：谷自治振興会員
 運行時間：平日 9～18時
 予約を3日前までに振興会事務局
 運行区間：谷地口～赤名バス停
 利用料金：燃料費相対額200円を
 予め会員券で購入
 運転手：振興会員ボランティア



運転するボランティア

資料：広報いーなん

商店分野

サロン×買い物場所

事例4 高齢者の買い物場所確保から出発「笑んがわ市」

雲南市中野地区 人口約600人、200戸、11自治会、高齢化率38%
 活動内容：JA空き店舗を利用し週1回買い物場所、サロン展開



経緯

平成22年10月にJA中野店口が閉鎖

- 買物が不便になった。
- 地域の交流の場がなくなった。
- 中野地口を中心地が寂しくなった。

特に高齢者からの不安の口が聞かれた

他方□□□

- 地元の女性グループから、空き店口を利用して何かできないか。
- 自主組織 中野の里づくり委員□のふるさと振興部から、地元の野菜や中野の特産品開口のこんにゃくを□ってみてはどうだろう。

前向きな口が聞かれた

資料：笑んがわ市資料から引用

JA中野店舗を利用し、地域の活性化と住民の生きがいや交流の場をつくることを目的とした、産直+憩いのスペース

組織の体制を□化するためにJA女性部、地元協力者に呼びかけ、

- 中野の里づくり委員□□
- ふるさと振興部、女性部、福祉部
- 食生活改善グループ 食改）、
- JA女性部、地元の協力者



まちづくりグループ笑んがわ市運□委員□を立ち上げ、平成23年6月23日(木)に「笑んがわ市」オープンを決定。

※24年度より、自主組織 中野の里づくり委員□ふるさと振興部の活動に位置づけられる

資料：笑んがわ市資料から引用

□業：□週木曜日、朝9時～□2時



店舗スペースで野菜や加工品などを販売し、隣接する事務所スペースでお茶コーナー(憩いの場)を開設

※お茶コーナー100円(ハービー、煎茶、紅茶)

＜運□スタッフ＞

運□委員、協カスタッフ約20名

□代表1名 □□計1名 □店□責任者2名

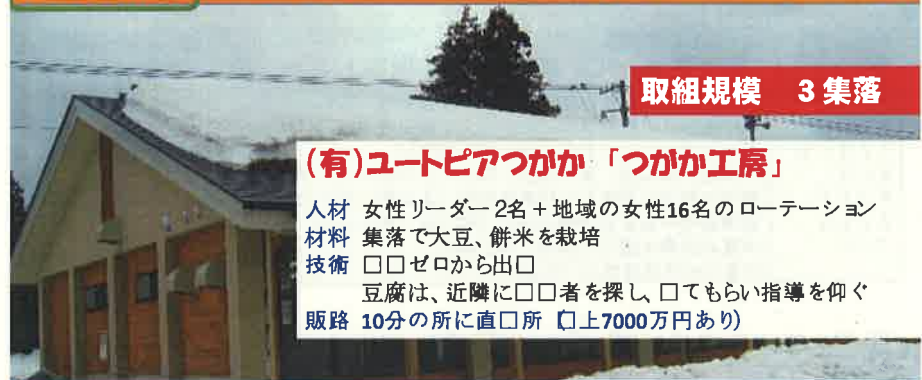
＜産直市登□□員＞※H24年11月現在

出荷登□□員32名、4組 加工グループ、JA果樹センターなど

資料：笑んがわ市資料から引

41

資源活用① 事例5 『地元販売からの』産品づくり



取組規模 3集落

(有)ユートピアつがか「つがか工房」

人材 女性リーダー2名+地域の女性16名のローテーション

材料 集落で大豆、餅米を栽培

技術 □□ゼロから出口

豆腐は、近隣に□□者を探し、□□でもらい指導を仰ぐ

販路 10分の所に直□所 □上7000万円あり

○人口148人、39世□、高□化率34%。島根県□屈指の積雪地□

○地域の女性の□□機□づくり、地域資源の活用、住民の集いの場所づくりを目的に、平成17年に集落□に農産加工施設(豆腐、餅、菓子、□菜)を整備すると平行して、加工品作りのグループが結成され、豆腐□餅製造から着手する。

○地域□に飯石郡ゴミ□理施設の□集□□理業務請負団体(有)ユートピアつがかが本グループの親□社となり、□初は□計など事務担□。

○地域□には集落□農組織があり、米、大豆、トマト製造等に取り組む

○平成18年、加工品作りグループは、「つがか工房」として組織化される。

42

特徴:集落住民の協力を得て商品づくりと販路づくり

豆腐の例

第1段階 最初の半年)

集落の方に半額で豆腐を販□、感想をもらいながら品質改善

第2段階 半年後)

品質が安定した後は定□で販□。集落の方には再利用できる豆腐容器を準備し、容器分□格を値引きして販□。

集落の方はつがか豆腐の最も安定したお客□」

第3段階 (1年後)

集落の方から□コミでおいしさが集落外に□がる。

販路:集落+集落外へ(町□)

第4段階 (2年後)

集落+集落外からの注文販□で販□先安定。さらに別の販路求める

販路:集落+集落外(□コミ)+直□所

43

豆腐、餅の販路を活かし伝統食の販路をつくる

端午の節句と泥落とし

6月6日は月おくれの端午の節句です。以前は男の子のお祝いの日でしたが今では、子供の健やかな成長を願うこどもの日です。男の子は菖蒲で頭を結び女の子は髪に結ぶは何事にも勝つと言われました。
「泥落とし」とは、田植えが終わり農作業の手を休めることです。
また、6月21日は夏至といって1年で昼が最も長く、夜は最も短くなる日です。他にも、衣替え、入梅があります。
つがか工房では、6月4日(日)に、おいしいあん餅を作ります。
家庭でだんご作りようのもち米100パーセントのだんごの粉の注文もします。
御入用の方はどうぞお知らせください。(6月4日(日) 正午出来上がり)

6月3日(土)までに、ご注文ください
高原の郷 つがか工房 TEL FAX (0854) 72-1025
キリトリ

名前	注文数
あん餅 (白とよもぎの8ヶ入り) 500円	
あん餅 (白とよもぎの4ヶ入り) 350円	
だんごの粉 (500g入り) 400円	

44

販売している行事食（2009年8月現在）

3/21	地元での行事食販売開始（赤飯、ぼたもち、3色かき餅）
4/3	ひなまつりの行事食販売（山菜おこわ、あん餅、3色かき餅、団子の粉）
5/2~5	ゴールデンウィーク向け菓子販売（餅）
6/3	（赤飯、あん餅、草だんご、おから入りコンニャク）
6/17	端午の節句と泥落とし行事食販売（あん餅、団子の粉）
6/24	菖蒲節句の笹まき行事食販売（笹巻き、団子の粉）
7/2	半夏の行事食販売（赤飯、笹巻き）
	半夏生の行事食販売（赤飯）

販売している商品（2009年現在）

豆腐	白豆腐（大豆）、みどり豆腐（青大豆）
豆腐関連	おからクッキー、おからドーナツ、おからコンニャク、豆乳プリン
もち関連	かきもち、平餅
菓子	おはぎ、椿餅、いちご大福、水菓子、いり豆
総菜	おやき、赤飯、中華おこわ、仕出し
材料	あずき、団子粉、青きな粉、白きな粉、こんにやく

※おから菓子商品は、テント等で実演販売（軽いので女性に人気）



事例6 邑南町 川角集落「花桃の会」

○人口19人、12世帯、1集落、高齢化率約80%

（5年前）集落の主要道沿線と耕作放棄地へ花桃植栽
みんなの心に残る美しいふるさとづくり





49



現在：春は花の里となる今年は開花期に延べ3000人訪れる

50



- 天國に一番近い郷に尊
「風あるクラシ」、龍あ
新しい山合づくりをしよ
- 地域マネージャー募
- 一 地域マネージャー募集
 - 二 地域マネージャー募集
 - 三 地域マネージャー募集
 - 四 地域マネージャー募集
 - 五 地域マネージャー募集

来年度：花桃の木陰に山菜の植栽開始 →若い人の収入
出身者の里帰り（Uターン）が少しずつ始まる

51

地域づくりでまず目指すべきは 『地域住民の集いの場』をつくる！

口羽をてごおする会(島根県邑南町 人口880人、高齢化率50.1%)
H21年活動開始 高齢世帯支援、買物支援、農産物販売、営農支援、新聞販売 等

- 7名で1日交替で仕切り
- 新聞折り込み・・・高齢女性、主婦さんに声かけて作業
 - 新聞配達・・・7名のうち担当の者が実施



閉店する地元新聞販売店を引き継いで
地元住民(半分は自営業)7名で事業開始

52

新聞配達事業



新聞の折り込み作業後の従事高齢者

- 拠点施設（小イベント実施可）
- 常に人がいる
- 立ち寄ってコーヒーが飲める

元気塾

桑の実ジャムづくりサロン（6.31）
ブルーベリージャムづくりサロン（8.31）

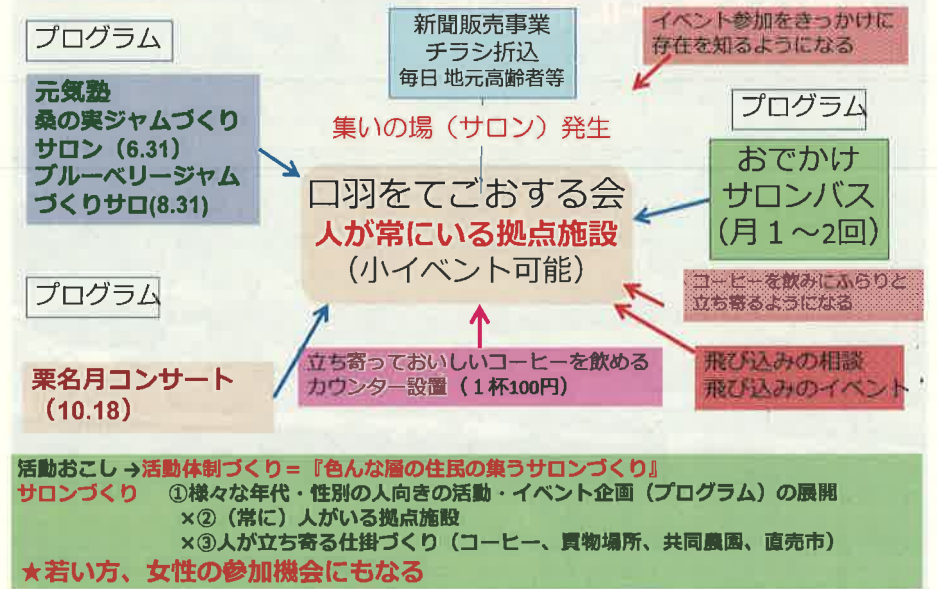


栗名月コンサート（10.18）
準備段階から様々な方が関わる



53

事務受託の団体代表、集落代表が資料持参で相談、
 独居高齢者相談、1ターン者空き家相談
 同窓会の参加者...食堂での同窓会前に飛び込みでスペースの使用



54

3. 次段階 地域運営から地域経営へ ～次世代リーダーのための所得基盤づく

若い人達の地域の外に働き場所があってもよい。
 だけど集落営農（オペレーター）や、商店やガソリンスタンドや建設企業等の地域密着の業を担う人達、地域マネージャーの働く場所（所得）は地域で確保。

事例1 【農業×農業】 銭宝地区農業再生プロジェクト

ねらい 次世代の集落営農の担い手の確保を図り、地区住民の若返りも進めたい。

★以下の内容で定住フェアなどで募集

田舎ぐらしのイメージを提示
 （両親+子どもの3～4人家族）

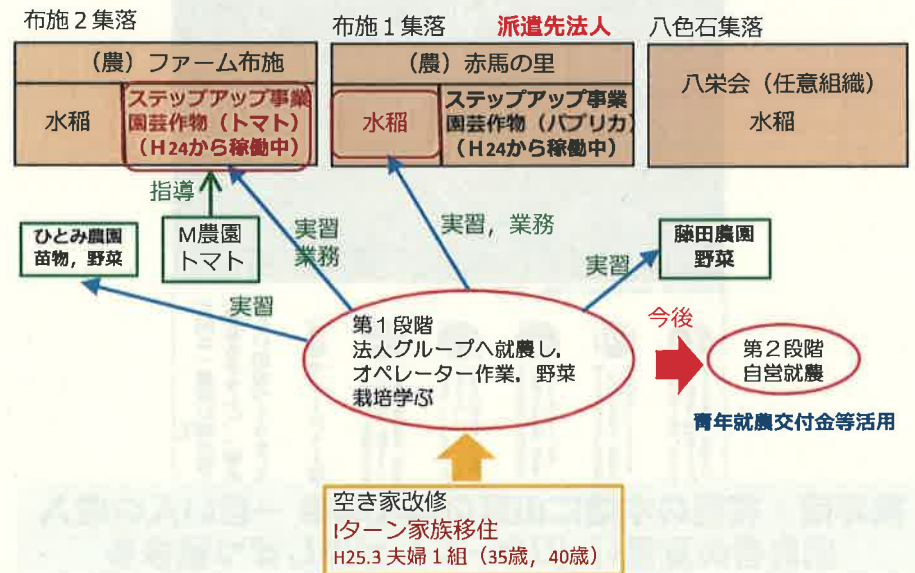
将来就農する場合（提供できる条件）

父親 法人への派遣事業で収入得る（当面）
 母親 食に興味があれば邑南町研修事業紹介（手当あり）
 小学生 高原小学校に通学（車で10分、中学生まで医療費無料）
 小学生未満 高原保育園でお預かり（車で10分、2子目以降無料）
 住居 町で斡旋

・ハウス
 「赤馬の里」のハウスは育苗期以外は利用可能。使用料は自立するまで無料
 ・農地法人の優良農地斡旋。
 使用料2万円/年（10a）、ハウス建設も可能
 ・就農支援
 町・県の各種支援制度紹介

55

【現在の状況】 パナナ：島根県新規就農者創出事業利用（月16万円程度、交通費別）



56

事例2 【農業×福祉×公園施設指定管理】 有限会社グリーンワーク+飯栗東地区振興協議会



57

有限会社グリーンワーク×出雲市佐田町飯栗東村地区

飯栗東村地区：世帯数105戸、人口344、農家33戸、耕地17ha

○年間の所得源を確保し定住実現 = 集落営農+福祉事業受託+7名を常勤雇用し、うちIターン者3名であり、町外からの3世帯の移住実現
H20年度現在、営農部門計約3,600万円、**外出支援と公園管理業務受託**で計445万円、それに**中山間地域直払や農地・水・環境保全向上対策等**の資金も活用して、年間雇用体系を確立（農繁期+農閑期）。

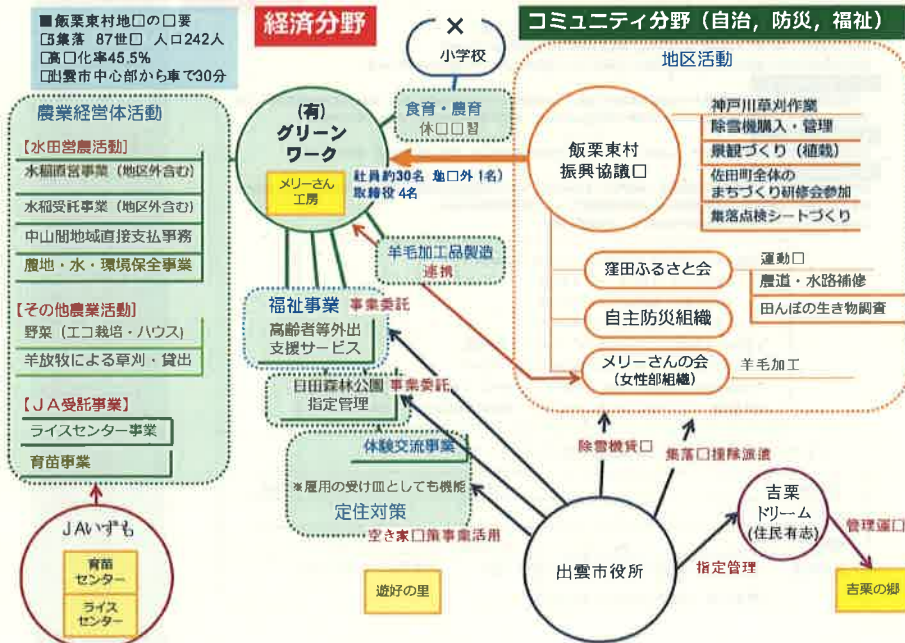
○営農
隣接地区を含めた水稻の直営栽培（16ha）、作業受託（15ha）、米販売
トマトの養液栽培
] A所有の水稻育苗やライスセンターも受託運営等

○地域福祉事業
出雲市から「高齢者等外出支援サービス事業」を受託。事前予約制で、ドアtoドアを基本に病院窓口まで付き添う支援を行う。市の公園の指定管理等も受託。

○羊の放牧と副産物の活用
畦畔の草刈りに羊を放牧し、農地の遊休化防止や有害鳥獣被害低減副産物の羊毛を地域女性グループ「メリーさんの会」がセーター等の加工・販売

58

(有) グリーンワーク×飯栗東村地区で定住受け皿づくり



59

事例4 新聞販売業×指定管理×(農業法人運営) 口羽をてごおする会 (島根県邑南町口羽地区)

安心して暮らし続けられる地域住民の暮らしを支える仕組みづくりを進める

○人口880人、高齢化率50.1%、
集落数20(H20.4末)

○平成18年度から、NPO法人ひろしまねと住民有志で**集落支援センター**を構想し、地域運営体制づくりを試行していたが、**住民、集落、関係団体との繋がりを強化するため、平成21年11月に新たに「口羽をてごおする会」を設立**



○当会は、**上記NPO法人構成員(地区在住)を含め、各集落の住民有志からなる組織で、地区社会福祉協議会の特別委員会である。**現在、生活支援を中心に行動している。

○補助金
 ~24年度：国の補助金などを独自に確保
 24年度～：人件費156万円、活動費(事務費、事業費) 90万円

60

①手ごおする隊を組織
○窓口＝地区社協
○対象年齢・制限なし
○利用料金
シルバー人材センター料金準拠

- 口羽のごおする会の窓口の開設
- てごお協力隊設立・登録募集(32名)
- てごお協力隊の支援活動開始
草刈り・墓掃除・田の荒起こし

協力隊活動(草刈り)



てごお隊登録用紙

申込書 手ごおする会文書職員として、参加希望します。

氏名		住所	大字	番地
生年月日	年 月 日(歳)	職業名		
自宅電話		作業仕事 可働時間	・空いている日いつでも ・土日のみ ・一日中	
携帯電話		通住環境	・ファックスもある ・インターネットもつながる	

前 どのの仕事ができますか、可能なものは全て○をして下さい。

・一般事務(事務作成等)	・農機具修理等	・野菜収穫補助の作業
・会計管理(総帳、簿記管理)	・草刈り等作業	・竹刈、間伐作業
・コンピュータ操作	・電気作業	・農機具運転
・アンケート調査訪問	・除雪作業	・農機具の運転
・高齢者実習訪問・指導	・農機具検査修理	・大型農機具
・配布物を配る	・農具修理等	・農産物運出作業
・家事手伝い	・農具修理等	・牛の飼育等作業
・配達物づくり	その他()	

前 その他ご意見ご要望

支援活動の要請は携帯メールアドレスに一斉案内したいと思っております、
 可能ならばメールアドレスを教えてください。

定期的実施(月1~2回)



②サロンバス運営

お出かけサロンバスのご案内

「銀山街道を訪ねる旅①」
 世界遺産を周遊する。銀山に訪ねる史跡をたずねる旅をしませんか。
 楽しみながら、学びながら、また朝顔への花見を楽しみましょう!!

- 運行日：7月19日(月祝)と7月22日(木)
 都合に合わせて前日の日(第1期、第2期)をお申込み下さい。
 可能なら親子が参加できるように人数調整させていただきます。
- 行き先：大森銀山
 布部から大森銀山までいろいろ史跡を訪ねています。
- 参加費：1500円
 (旅行先での入館料、観音代等は別途でご負担下さい)
- 参加資格：65歳以上(口羽地区にお住まいの方)
- 申込締切：7月15日 までにご連絡下さい。
- 申込・お問合せ：てごおする会 事務局
 電話 87-0140 (中村まで)

※ 運行日、参加者の状況により、遅くまでお帰しになります。帰りも荷物、お送りしますので、交通手段についてご心配なく、お申し込み下さい。
 (朝顔見せ：1000円くらいから贈答お返しに行きます)
 ※ 少人数募集では、全員をお送りできるとは限りません。
 ※ 参加費には目的地の旅行保険加入料も含まれていますので、安心してご参加下さい。
 ※ 翌年に3回開催のお出かけサロンバスの運行を予定しています。
 ※ その他には、またご案内させていただきますので、覚えてお越し下さい!

経済事業

**③中山間直接支払い制度
農地水環境事業
事務手続き代行**



**中山間地域直払制度
農地水環境
口羽地区全集落
2集落**

ふるさと米の供給協定を結びませんか

経済事業

今、ふるさと米の田作り...
 私たちふるさと米産地では過疎・高齢化により田作りがどんどん荒廃しています。
 かつて350haほどあった羽須美の田んぼは、現在200haくらいまで減っています。
 おいしい米がとれる山間高冷地の田んぼから先行して消費していく現状を見ると、もったいない気がします。

そこで、米の供給協定を
 平均的な家庭1ヶ月の米必要量を10kgとして計算すると、100世帯1年分の供給協定により、約4haの田んぼを確保することができます。ふるさと米産地のある方々が面積手を結びることにより、様々な現状効果を期待することができます。

農の安全時代に向けて
 誰がどのような作り方で米を育てたか、ふるさと米はその情報がきちんと確かめられ、安心して口にすることができます。

食料危機時代に向けて
 飛躍的少子高齢化、経済発展、地球温暖化、穀物のバイオエネルギー化など中長期的には食糧不足の時代へ向かっていると予測されます。また都市では地産米などの食糧が減少するとたちまち食料/パンクになる恐れもあります。
 ふるさと米はあなたのご家庭のお米をきちんと確保し、供給保証します。

■ 価格は10kgあたり5,000円として、(送料、玄米保管料を含む。)

A. お試しコース	30kg	15,000円
B. 半年コース	60kg	30,000円
C. 1年コース	120kg	60,000円

を保証料として前払いいただきます。(1年ごとに契約更新)
 振込口座は下記のとおり2つあります。(振込口座はご負担ください)
 ①山崎合同銀行口羽代理店(普通) 3600279 NPOひろしま理事小田博之
 ②郵便振替 013000-9-028003 特定非営利活動法人ひろしま

ふるさと米供給保証協定申請書 FAX 0855-87-0775

お名前		注文□□□	30kg 60kg 120kg
お付け先	〒		
電話番号		E□□□	
送付形態	送付回数(12回/6回/4回/2回/1回)	希望項目を○で□んで	
	精米□合(玄米□5分□7分□上白)	ください。	

④ふるさと米販売(供給保証協定)
取扱量 120kg ↓約2tへ
販売路 出身者2世帯↓出身者の子供・知人・取引相手へ

④新聞販売事業

7名で1日交替で仕切り

- 新聞折り込み…高齢女性、主婦さんに声かけして作業
- 新聞配達…7名のうち担当の者が実施



→販口額1000万円(見込み)LLPでござるLLPで職員雇用が可能に
→ガスや電メーター一点も同時可能に、安否確認も同時に可能に

閉店する地元新聞販売店を引き継いで
地元住民(半分は自営業)7名で事業開始

ふりかえり+α

○人口状況をみれば定住推進は必須

○定住推進を前提としても、現在よりも小さな人口規模で高齢世帯生活支援、見守り、空き家対策等に取り組む体制づくり必要

→地域運営の仕組みづくり=小さな拠点づくり

○地域運営の仕組みづくりを進める2つの視点、4つのポイント

- 2つの視点 活動は“合わせ技”で展開、活動の中に地域でお金を回す仕組み
- 4つのポイント 人口推計、全住民アンケート、計画づくり、会議運営

○地域運営の仕組みづくり=小さな拠点づくり

- 第1段階 地域運営組織と各活動立上げ
- 第2段階 経済事業部門拡大 → 法人・組合 ※位置づけは様々

※これら経済活動の推進母体は、LLP,合同会社など様々。
大切なのは、地域住民や自治会としっかり合意できる組織であること

収入拡大に対応して
会計体制を整備

⑥LLPでござる会立上げ

⑦活動事務員 雇用実験



ご清聴ありがとうございました

